

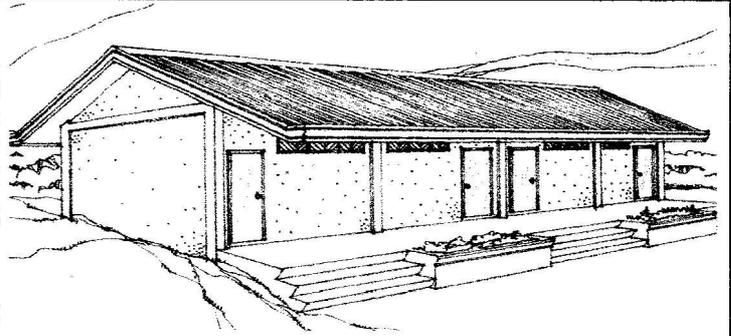
新規

ラムアフス小学校校舎増築事業（松尾基金）

ラムアフス小学校のあるラムブソンでは、小学校開校の翌1999年には多目的住民組合が発足。マリオ先生の指導が良く、組合は順調に機能し続け、配当も出せるようになりました。児童数も7年前に比べて倍増しました。問題は4教室を全6学年で使用することがきびしくなり、十分な指導ができなくなってきたことです。このように1998年の学校建設からずっと関わってきたラムブソンで、校舎増築を支援することにしました。後期授業開始の11月完成を目指して現在CMBと事業計画の最終確認をしているところです。



現校舎(FIDR 助成)の竣工を祝う子どもたち(1998年8月)。助産師コース卒のピーナや看護助手コースで学ぶエリザベスもいます。



新校舎完成予想図。ラムブソンは周りを急斜面に囲まれた台形上部に開けた集落です。G.サントス市内から日帰り圏ですが、中継地で車を降りてからが大変。急坂を40分登ります。

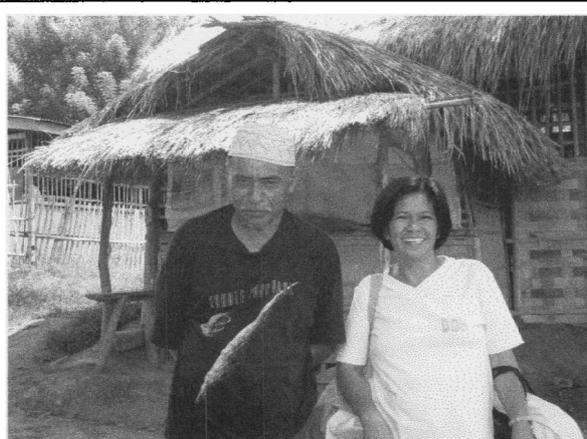
簡易水道建設と研修による先住民族の生活改善事業（今井記念海外協力基金助成）

「米を10kg借りて、1週間返すのを忘れていても、誰も気にしない。水1ガロン(約3.8リットル)を朝借りて、昼過ぎまでに返さないと間違いなくケンカになる。」

事業対象地域ラナスでは、水がいかに貴重かを示すものとして、よくこの話をするそうです。最も近い水源まで2kmの道をポリタンクを持って往復するという生活を続けてきた住民たちは、今年ようやくその労苦から解放されます。安全な水の不足に起因する胃腸病や皮膚病も減ると期待されます。

6月訪問時に参加した住民集会では、イスラム系マギンダナオ民族の住民(70%)の首長がリーダーシップをとり、チボリ民族、キリスト教徒とともに水源地点のコンクリート保護柵、パイプ敷設、中間地点と終点の2基の貯水槽建設に関する作業ローテーションを話し合いました。

中間地点の村ラハマ、支線の先にあるシオプを含む3コミュニティー、合計270世帯1,350人が水の恩恵を受ける予定です。7月22日付PFPのメールにはすでに資材の購入が始まったとありました。



住民のまとめ役、イスラム指導者グリント(左)と、事業に含む衛生栄養研修でもお世話になるバランガイ・ヘルスワーカーのララさん。



水源から集落までを測量するPFP土木専門家オーラン他スタッフ。パイプ延長距離は8,700mになる。山を越え谷を渡ってのパイプ敷設は住民の共同作業バヤニハンで実施。